NEWS

JAAF HIROSHIMA
陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会
第105号
R6.12.21発行

広島から パリ五輪へ

De Hiroshima aux JO de Paris 2024

第33回オリンピック競技大会（パリ）
PARIS 2024
2024.7.26-8.11

FUKUBE Mako 100mH

福部真子

●生年月日／1995年10月28日生まれ●所属／日本建設工業●自己ベスト／100mH:12.69（2024.6オールスターナイト陸上）日本記録●主な代表歴／オリンピック（24パリ）、世界選手権（22オレゴン）●日本記録保持種目／100mハードル

全てにおいて天と地だった

五輪の景色は美しかったし、厳しくもあった。女子100メートル障害に出場した福部真子（日本建設工業、広島皆実高出）は、準決勝敗退が決まった後に言った。「**自分のハードル人生の中で最高の12秒間だったと言い切れる。でも、もっとタイムを出したかった思いがあるから複雑な気持ち**」。

秒77）を突破する12秒75をマーク。決勝を制して代表内定をつかんだ。昨年の日本選手権4位でブダペスト世界陸上の代表を逃した時、「この失敗を生かしてこそ私」と言って流した涙を無駄にはしなかった。

女子100メートル障害は寺田明日香が日本人初の13秒切りを果たし、その後に青木益未が12秒86まで日本記録を伸ばした。「**日本のレベルがどんどん上がっていったおかげで、もっと高みへと思えるようになった。（今回の経験を）次世代の人たちに伝えていくのも今後の役目かなと思う**」と福部。パリを超える最高の12秒間を求めて、これからもハードルを跳び続ける。

オリンピックの決勝で勝負をすると目標を立て、広島に拠点を戻して4年。長いようであっという間でした。
多くの方のご声援、サポートがなければ踏ん張れなかったと思います。オリンピックの決勝に立つことは叶いませんでしたが、予選、準決勝と最高の12秒間を体感できたことは生涯忘れることはないと思います。これからも自身の記録に挑戦しながら、世界との差を縮められるよう精進していきます。引き続き応援よろしくお願い致します。

日本建設工業　**福部真子**

2年目の2020年に日本歴代4位タイの2メートル31をマーク。21年の東京五輪出場は出場がかなわなかったが、23年の杭州アジア大会で銅メダルを獲得するなど実績を積み上げ、3年後の今回、世界ランキングで五輪代表をつかんだ。「**こういう舞台で競技できた自分を誇りに思いたい**」と実感を込めた。

世界大会は3年連続の出場だった。22年のオレゴン世界陸上は日本人初入賞となる8位で、23年のブダペスト世界陸上と今回のパリ五輪は予選落ち。「**決勝進出が最初のオレゴンだけなので、来年に東京である世界選手権では決勝に進出して22年以上の結果を残したい**」。日本記録（2メートル36）の更新にも意欲を燃やす27歳は、まだまだ咲き続ける。

害の敗者復活戦を終えてミックスゾーンに表れた高山峻野（ゼンリン、広島工大高出）の第一声はそれだった。初出場した東京五輪に続いて「セミファイナリスト」にはなれなかったが、持てる力は振り絞った。

差はわずかだった。各組3着までと4位以下のタイム上位4人が準決勝に進む4日の予選は13秒46で、3着と0秒03差の5組4着。タイム3番目と0秒03差の4番目だった。2日後の6日にあった敗者復活戦では各組2着までが準決勝に進める中、13秒45（13秒450）の3着。2着とは0秒005差で涙をのんだ。

敗者復活戦を終えた後、「**会社やサポートして下さった方に申し訳ない**」と口にしても、「悔しい」の一言は最後まで発さなかった。「**僕の中では一つの試合にしか過ぎないので、記録会とかと変わらない**」とも。ただ、行動は違った。予選では号砲直前の練習では超満員のスタンドに響く大声でほえて気合を入れ、敗者復活戦を走り終えた時はコースに両膝をついてがっくりとうなだれた。

満員の観客で盛り上がったスタッド・ド・フランス。「**熱気がすごくて楽しかった**」と普段は味わえない歓声の中を一心不乱に走った。2015年に日本選手権を初制覇して以来、長く日本のハードル界を引っ張ってきた第一人者。6月末の日本選手権でも今シーズンの低

SHINNO Tomohiro 走幅跳

真野友博

●生年月日／1996年8月17日生まれ●所属／九電工●自己ベスト／走高跳:2m31（2020.9全日本実業団対抗選手権）●主な代表歴／オリンピック（24パリ）、世界選手権（23ブダペスト、22オレゴン）、アジア大会（22杭州）

3年連続出場の世界大会

「花の都」で世界に挑んだ遅咲きのジャンパーは、悔しさと充実感をかみしめた。男子走り高跳び予選で、真野友博（九電工、広島山陽高出）は2メートル20の全体23位で敗退。「**決勝に進出できず残念な気持ちもあるが、お祭りみたいな雰囲気で楽しむことができた**」とすっきりとした表情を浮かべた。

パリの空をふわりと舞った。2メートル15を1回で成功させ、2メートル20は3回目でクリア。続く2メートル24は3回連続で失敗して初の五輪を終えたものの、「**2メートル20の3回は自分本来の跳躍。自分の良さを出すことができた**」と振り返った。

10年前には考えられなかった光景だろう。広島山陽高時の自己ベストは2メートル07で、本人曰く「県の大会でヒーヒー言っていたような選手」。それが福岡大で急成長し、九電工入社

いつも温かいご声援ありがとうございます。多くの方の応援やサポートが力となりオリンピックという最高の舞台に立つことができました。結果は予選敗退でしたが、試合の雰囲気はよく、とても楽しく充実した時間でした。
再びオリンピックの舞台に立てるよう引き続き頑張っていきたいと思います。まずは東京世界陸上でオレゴン世界陸上の時以上の結果を出せるようにしたいと思います。これからも変わらぬご声援よろしくお願いいたします。

九電工　**真野友博**

TAKAYAMA Shunya 110mH

高山峻野

●生年月日／1994年9月3日生まれ●所属／ゼンリン●自己ベスト／110mH:13.10（2022.8　実業団・学生対抗競技会）●主な代表歴／オリンピック（24パリ、20東京）、世界選手権（23ブダペスト、19ドーハ、17ロンドン）、アジア大会（22杭州、18ジャカルタ）

0秒005差で涙をのんだ

「**しょうがないですね**」。男子110メートル障

迷を振り払う快走で村竹ラシッドに次ぐ2位に入った。9月で30歳。「**若手がどんどん出てきているので、引っ張っていけるように頑張りたい**」。活況のハードル界をますます盛り上げていく。

パリオリンピックでは予選落ち、敗者復活戦も敗退となりました。前回大会同様に、試合直前の怪我の影響で思うようなパフォーマンスができず、もどかしさがありました。ただ、今の自分の状態でやれる事はやって、力を出し切ったので悔しさはありません。また来年には東京で世界選手権があるので、そこでは結果を残せるように精進していきます。今大会参加にあたり、たくさんの方々からサポートやご声援をいただき、とても力になりました。本当にありがとうございました。

ゼンリン　**高山峻野**

大健闘!チーム広島!!

［SAGAサンライズパーク］SAGAスタジアム（陸上競技場）

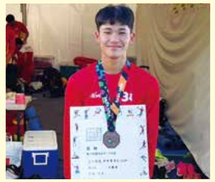
総合成績
天皇杯（男女）
61.5点［16位］
皇后杯（女）
27.5点［23位］

SAGA2024 1日目 10/11 FRI

清々しい秋晴れの中、国民体育大会から名称が変わったSAGA国民スポーツ大会が始まった。広島県チームの初日はトラック種目のみとなり、決勝種目は行われなかった。その中で、少年男子B100m荒谷匠人（近大東広島高1）、少年女子B三好美羽（神辺西中3）、少年女子A100m松本真奈（広島皆実高2）、少年女子A300m増原優羽（広島皆実高3）の4名が翌日の決勝に駒を進めた。また成年少年女子4×100mRでは三好美羽、清水鈴奈（環太平洋大3）、島本優美香（広島皆実高3）、松本真奈のオーダーで準決勝進出を決め、翌日以降に期待の持てる大会初日となった。

SAGA2024 2日目 10/12 SAT

初日に続き晴天となった2日目。少年男子B100mで荒谷匠人（近大東広島高1）がハイレベルな争いの中3位でゴール。「スタートで上位2人に前に出られたが後半しっかり粘れた」走りで落ち着いて自分の力を発揮することができた。少年女子A100mでは松本真奈（広島皆実高2）が1000分の2の中で4人がフィニッシュする接戦を制し3位。「勝ちたい気持ちの差で3位になれた。来年の広島インターハイでは優勝したい」と今後にも期待を抱くレースであった。少年女子A300mでは増原優羽（広島皆実高3）が前半から積極的な走りを見せ、最後まで粘り抜き3位でフィニッシュ。「楽しく走れた」と笑顔でメダルをゲットした。少年女子B100mで三好美羽（神辺西中3）、成年女子ハンマー投で勝冶玲海（九州共立大M1）がそれぞれ8位に入賞した。また成年少年女子共通4×100mRでは前日に続き、三好、清水、島本、松本のオーダーで広島県記録の45秒35で女子リレー史上初の決勝進出を決めた。



↑荒谷匠人

↑松本真奈：左／増原優羽：右

↑勝冶玲海

SAGA 2024 国スポ 全障スポ

●国民スポーツ大会：2024.10.5-15 ●全国障害者スポーツ大会：2024.10.26-28

佐賀県　SAGA　JAPAN GAMES

SAGA2024 3日目 10/13 SUN

成年男子走幅跳において安立雄斗（福岡大M2）が専門の三段跳に先立ち優勝。「広島県代表として国スポに出場することが誇り」と追い風参考ながら広島県記録に並ぶ7m98（+2.5）の大ジャンプを見せた。少年男子共通5000mWでは、中島壮一朗（舟入高3）が自己ベストを更新し2位インターハイ王者の力を国スポでも十分に発揮したもののライバルに更に上を行かれ「嬉しさ半分悔しさ半分」とのコメント。男女ともに4×100mリレーは着順で準決勝進出を決めた。成年男子100mではパリ五輪代表の山本匠真（広島大4）が順当に決勝進出を決めた。成年少年共通女子4×100mRは廏田幸（向陽中3）、清水、島本、松本のオーダーで8位に入賞。選手、スタッフを含めたチーム広島でとれた初めての女子リレーの入賞であった。少年女子A300mHでは島本優美香（広島皆実高3）が43秒12と自身が持つ広島県記録を大幅に更新するが惜しくも決勝進出はならなかった。

↑中島壮一朗

↑廏田幸、清水、三好、島本、松本

↑安立雄斗

SAGA2024 4日目 10/14 MON

成年男子100mで山本匠真（広島大4）が2位。「勝ちたかった」と悔しさも残るものの今シーズンの活躍を表す堂々の走りだった。少年男子5000mでは本宮優心（世羅高3）が前日に「13分台で走って入賞する」との言葉通りに13分54秒99で6位入賞。有言実行で駅伝シーズンにも期待を持てる見事な走りであった。成年男子三段跳では昨日走幅跳優勝の安立雄斗（福岡大M2）が6位に入賞。成年女子800mでは池崎愛里（ダイソー）が順当に着順で翌日の決勝進出を決めた。男女混合4×400mリレーは宍戸暸太（広島井口高3）、増原優羽（広島皆実高3）山口純平（福岡大4）江原美月優（福岡大1）のオーダーで県新記録を大幅に更新する走りで善戦するも9番目で決勝進出はならなかった。

↑本宮優心

↑山本匠真

SAGA2024 5日目 10/15 TUE

少し雨もちらついた最終日。成年女子800mで池崎愛里が6位に入賞。少年女子A3000mで細見芽生（銀河学院高3）が入賞争いに絡む積極的な走りを見せるも11位でフィニッシュ。

大会を通して12種目で優勝または入賞し、天皇杯は61.5点で16位であった。

Time Another
REPORT

年代別レポート

小学生

2024年の小学生のトラックシーズン最終の大会第36回広島県小学生総合体育大会陸上競技の部は残念ながら、大雨警報のため、中止となったので、小学校高学年4種競技大会が最後の大会となった。この4種競技大会は低学年大会・高学年大会と行っているが、毎年盛況である。また、この近年、広島県では、全国学生陸上競技交流大会で、コンバインド種目での活躍が目立っている。今年も、進藤和奏（竹尋AC）が女子コンバインドB（走幅跳・ジャベリックボール投げ）2133点（広島県記録）で優勝し、小川幹太（セトナミSC）が男子コンバインドB2296点で4位入賞している。これらのことは、小学生の指導者の皆様が、児童の発達段階を大事にした指導を心掛けてくださっていることの現れであると思っている。広島陸協が行っている日本陸連公認スタートコーチ・ジュニアコーチの指導者養成の講習会では、日本陸連のめざす競技者養成指針を伝えている。小学校期は、「楽しく陸上競技の基礎をつくる（身体的リテラシーの継続的な育成）」で「いろいろなスポーツ、種目に取り組み、動作を習得する時期」としている。このような方向性を理解していただくためにも日本陸連は「全ての指導者の方にコーチ資格を!」という指導者養成指針を示し、コーチ資格取得を促している。今後も関係の皆様と連携し、ジュニアへの陸上競技の普及と指導者養成の取組を進めていきたい。

広島陸上競技協会　指導・普及委員長
石川　和明

中学生

7月6日（土）、7日（日）に広島広域公園陸上競技場で開催した、全日本中学生通信陸上競技広島県大会では、三好美羽（神辺西中）が3年生女子100mの決勝で11秒57（+2.0）の記録をたたき出し、日本中学新記録を更新した。この日の予選では、組によって向かい風になったり、最大4.4mの追い風が吹いたりと、風が安定せず気象条件も心配だったが、決勝では風も味方につけ最高の舞台となった。台風の接近で交通機関が乱れ、大会の開催や予定通り到着できるか不安な状況だったが、広島よりやや涼しい日が続き、男子22名・女子14名の合計36名が福井の地で力を発揮した。男子800mに出場した長野煌史（祇園中）は、自分の出せる力を最後まで振り絞り、1分55秒27の自己ベストで予選を通過し、決勝では見事3位を勝ち取った。棒高跳の水本健太（庚午中）は長時間の試合になったが、気持ちを切らすことなく4m20で6位入賞、男子400mRに出場した広島なぎさ中は予選でのアクシデントがあったが8位に入賞することができた。女子100mに出場した三好美羽（神辺西中）は足の調子が万全ではない状態での決勝のレースになったが2位で大会を終えた。広島県選手団の最後まであきらめずに全力で試合に臨んでいる姿に心を打たれる大会であった。

広島県中学校体育連盟　陸上競技専門委員会
委員長　**岡広　徹**

高校生

令和6年度の全国高校総体は、福岡県博多の森陸上競技場で開催された。広島県からは男子54名、女子39名が出場した。男子では、5000mWに出場した中島壮一朗（舟入高）が20分45秒36で見事に優勝を果たした。昨年度第4位からのリベンジを果たした。女子は細見芽衣（銀河学院高）が1500mで第6位に、3000mでも第5位に入賞した。1500mは広島県高校新記録を樹立し、3000mでは外国人留学生を除き日本人最高順位でのゴールを果たした。また3000mではローズワンゲイ（世羅高）が第3位に入賞した。砲丸投に出場した迫田明華（西条農業高）が12m97で第6位に、ハンマー投でも50m64で第5位に入賞した。やり投に出場した田中麻央（比治山女子高）が43m54で第8位に入賞した。また、女子4×400mRでは、広島皆実が45秒95の広島県新記録、広島県高校新記録で第3位に、4×400m Rでも、3分44秒14で第6位に入賞した。マイルリレーでは予選・準決勝と広島県高校新記録を連発し、見事入賞を果たした。男子1種目優勝、女子8種目入賞と、近年では最高成績をあげた。いよいよ次年度に迫った広島インターハイに向けて、チーム広島で強化育成と普及の両輪に取り組み、地元インターハイでの活躍を期待したい。

広島県高体連陸上競技部　事務局長
尾道北高校　**北風　慎哉**

大学生

今年も広島で多くの陸上競技大会が開催され、選手たちが全力を尽くす姿と、それを支える観客や応援団の存在が印象的だった。今年から声出し応援が復活し、観客席からの大きな声援や拍手が選手の背中を力強く押していた。各大学が工夫を凝らした応援も会場を盛り上げ、改めて陸上競技の魅力を実感した一年だった。特に、選手一人ひとりの努力と、それを応援する人々の結束を感じることができた。広島支部の学連幹事長として活動する中で、多くの経験を積んだ。大会運営や準備から当日の進行まで、仲間たちと共に悩み、考え、乗り越えてきた。課題もあったが、失敗を糧にし、少しずつ成長できたと思う。選手や観客の皆さんから直接感謝の言葉をいただくこともあり、やりがいを感じた。幹事長としての任期は一区切りだが、これからは後輩たちを全力でサポートし、学んだことを伝えていきたいと思う。最後に、広島陸上競技協会の先生方、広島県学連加盟校の皆様、そして学生連盟を支えてくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

中四国学生陸上競技連盟広島支部
幹事長　**上野 温斗**

実業団

当連盟では、10月13日（日）岡山県笠岡市にて、第62回広島県実業団駅伝競走大会を開催した。この大会は、岡山県社会人対抗駅伝競走大会と合同開催しており、広島、岡山合わせて15チームが出場し、熱い戦いを繰り広げた。1部のレースでは、2区でトップに立った中電工が2年ぶりの優勝を手にした。2部はトップギアが連覇を目指したが、6区間中2区間で区間賞を獲得するも惜しくも準優勝となった。11月24日（日）には、クイーンズ駅伝が宮城県で開催され、エディオンが終始上位で安定したレースを見せ5位入賞を果たした。また、11月10日（日）に世羅町で開催された中国実業団駅伝では、中電工が大会新記録に迫る走りで2年ぶり2度目の優勝を果たした。2位中国電力、3位マツダ、4位JFEスチールとなり、この4チームは2025年元旦に群馬県で開催されるニューイヤー駅伝への出場権を獲得した。駅伝・マラソンでの広島県勢の更なる活躍を期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟
山崎 亮平

マスターズ

いつまでも元気で

第45回　全日本マスターズ陸上競技選手権大会が2024年9月21日（土）～23日（月・祝）に、たけびしスタジアム京都で行われた。広島マスターズ陸上競技連盟からも多くの参加者が、全国のアスリートと競い合った。1位15名、2位14名、3位13名と好成績を上げることができた。中でもW55（55歳以上女性の部）4×100mRでは東京都を破り、見事に優勝を飾った。日ごろの鍛錬のたまものだと思う。歳をとると、体力、気力ともに衰える。そして、だんだんと動くこと自体がおっくうとなり、生活習慣病の発症、そして寿命までも縮めてしまうことになりかねない。歳をとってもみんなで楽しく、陸上競技を続けられることはとても幸せなことだと思う。

広島マスターズ陸上　広報
吉岡　光弘

令和6年度

一般財団法人広島陸上競技協会 受賞者名簿

公益財団法人 日本陸上競技連盟栄章

秩父宮章
中野 繁(広島陸上競技協会 常務理事)

高校優秀指導者章
櫻井 敬文(宮島工業高 教諭)

中学優秀指導者章
八幡 昌幸(近大東広島中 教諭)

高校優秀選手章
江原 美月優(神辺旭高→福岡大)

中学優秀選手章
荒谷 匠人(近大東広島中→近大東広島高)

安藤百福記念章
瀧口 和博(庄原AC)

公益財団法人 広島県スポーツ協会スポーツ賞

■特別表彰
優秀指導者
松谷 清志(広島皆実高教諭)
第78回国民体育大会 陸上競技男子監督

一般財団法人 広島陸上競技協会

■功労章
岩本 邦史(広島市)・宮村 賢治(呉市)
西本 広幸(庄原市)・瀬沢 唯見(安芸高田市)
廣兼 裕史(大竹市)・藤井 康裕(福山市)
仁ノ岡 範之(三原市)・樽谷 光雄(安芸郡)

■優秀選手賞
国際大会の部
山本 匠真(広島大)
2024世界リレー(5月5日・バハマ)
男子4×100mR 4位 38秒45
山本匠真・柳田大輝・上山紘輝・三輪颯太

国内大会の部
安立 雄斗(福岡大)
2024日本学生陸上競技個人選手権(6月16日・平塚)
男子三段跳 優勝 16m47
第108回日本陸上競技選手権大会(6月27日・新潟)
男子三段跳 優勝 16m70
第93回日本学生陸上競技対校選手権
(9月21日・等々力)
男子三段跳 優勝 16m08
テレシケ・ムッソーニ(ダイソー)
第72回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会
(9月22日・山口)
女子1500m 優勝 4分02秒54
第72回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会
(9月23日・山口)
女子5000m 優勝 15分06秒03
中島 壮一朗(舟入高)
第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
(7月30日・博多の森)
男子5000mW 優勝 20分45秒36
三好 美羽(神辺西中)
第107回日本陸上競技選手権大会・室内競技
(2月3日・大阪城ホール)
U16 女子60m 優勝 7秒42
進藤 和奏(竹尋AC)
第40回全国小学生陸上競技交流大会
(9月22日・国立)
女子コンバインドB 優勝 2123点
澤田 孝弘(マスターズ陸上広島)
第45回全日本マスターズ陸上競技選手権大会
(9月22日・西京極)
M65 走高跳 優勝 1m45
岩佐 光繁(マツダアスリートクラブ)
第45回全日本マスターズ陸上競技選手権大会
(9月23日・西京極)
M45 三段跳 優勝 12m45
西坂 官(TEAM BIG STONE)
第45回全日本マスターズ陸上競技選手権大会
(9月23日・西京極)
M50 円盤投 優勝 40m13
原 俊三郎(マスターズ陸上広島)
第45回全日本マスターズ陸上競技選手権大会
(9月23日・西京極)
M85 ハンマー投 優勝 20m10
M85 やり投 優勝 20m20
芦原 広美(オリンピアプラス)
第45回全日本マスターズ陸上競技選手権大会
(9月23日・西京極)
W55 80mH 優勝 13秒93
M85 走幅跳 優勝 4m30
種田 尚美(マスターズ陸上広島)
第45回全日本マスターズ陸上競技選手権大会
(9月23日・西京極)
W65 3000mW 優勝 20分26秒99
広島県選抜
長嶋ひな子(マスターズ陸上広島)・芦原広美(オリンピアプラス)・清見久美子(マスターズ陸上広島)・則清圓恵(マスターズ陸上広島)
第45回全日本マスターズ陸上競技選手権大会
(9月23日・西京極)
W55 4×100mR 優勝 59秒67

第78回 国民スポーツ大会陸上競技 優勝および入賞の部
[1位] 安立 雄斗(福岡大)
成年男子走幅跳 7m98
[2位] 山本 匠真(広島大)
成年男子100m 10秒24
中島 壮一朗(舟入高)
少年男子共通5000mW 20分26秒68
[3位] 松本 真奈(広島皆実高)
少年女子A100m 11秒86
増原 優羽(広島皆実高)
少年女子A300m 38秒58
荒谷 匠人(近大東広島高)
少年男子B100 10秒74
[6位] 本宮 優心(世羅高)
少年男子A5000m 13分54秒99
池崎 愛里(ダイソー)
成年女子800m 2分5秒60
安立 雄斗(福岡大)
成年男子三段跳 15m79
[8位] 三好 美羽(F・a・s・t)
少年女子B100m 13秒25
勝治 玲海(九州共立大)
成年女子ハンマー投 56m15
広島県選抜
隅田幸(向陽中)・清水鈴奈(環太平洋大)・島本優美香(広島皆実高)・松本真奈(広島皆実高)
成年少年女子共通4×100mR 46秒05

皇后杯 第43回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会
広島県
第3位 2時間17分23秒
兼友良夏(鶴学園クラブ)・竹原さくら(ダイソー)・藤井柑奈(西条中)・江口美咲(エディオン)・森安桃風(銀河学院高)・山田依実(世羅高)・高橋美月(銀河学院高)・三宅凜(西条中)・谷本七星(名城大)
(1月12日・京都)

■新記録賞
日本中学記録／中国中学記録／広島県中学校記録
三好 美羽(神辺西中)
女子100m 11秒57
第70回全日本中学校通信陸上競技広島県大会
(7月6日・広島広域)

日本マスターズ記録／中国マスターズ記録／広島県マスターズ記録
桑田 和佳(広大樟柳クラブ)
M40 やり投 67m76
第18回岡山陸上競技カーニバル大会
(10月26日・岡山)
澤田 孝弘(マスターズ陸上広島)
M65 混成5種 3253点
2024石川マスターズ混成陸上競技選手権大会
(10月5・6日・石川)

広島県記録
安立 雄斗(福岡大)
男子三段跳 16m70
第108回日本陸上競技選手権大会
(6月27日・新潟)
広島県選抜
三好美羽(F・a・s・t)・清水鈴奈(環太平洋大)・島本優美香(広島皆実高)・松本真奈(広島皆実高)
女子4×100mR 45秒35
第78回国民スポーツ大会 陸上競技
(10月12日・佐賀)
広島県選抜
宍戸滝太(広島井口高)・増原優羽(広島皆実高)・山口純平(福岡大)・江原美月優(福岡大)
男女混合4×400mR 3分23秒74
第78回国民スポーツ大会 陸上競技
(10月12日・佐賀)

広島県記録／広島県高校記録
中島 壮一朗(舟入高)
男子3000mW 12分07秒
令和6年度 第1回広島県高校生競技会
(4月13日・広島広域)
島本 優美香(広島皆実高)
女子300mH 43秒75
第78回広島県陸上競技選手権大会
(6月29日・広島総合)
松本 真奈(広島皆実高)
女子100m 11秒57
第63回広島県高等学校新人陸上競技大会
(9月14日・広島広域)
女子200m 24秒04
第63回広島県高等学校新人陸上競技大会
(9月15日・広島広域)
広島皆実高
島本優美香・増原優羽・河村捺希・松本真奈
女子4×100mR 45秒95
第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
(7月30日・博多の森)
広島皆実高
島本優美香・松山みづき・河村捺希・増原優羽
女子4×400mR 3分42秒88
第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
(7月30日・博多の森)

広島県高校国際記録
ローズ ワングイ(世羅高)
女子3000m 8分50秒36
第77回広島県高等学校総合体育大会(陸上競技)
(5月25日・広島広域)

広島県高校記録
宮本 拓弥(広島国際学院高)
男子1000m 2分29秒62
令和6年度 第1回広島県高校生競技会
(4月13日・広島広域)
林 優太(広島高校)
男子1000m 2分30秒22
令和6年度 第1回広島県高校生競技会
(4月13日・広島広域)
大田 蘭斗(広島国際学院高)
男子1000m 2分30秒81
令和6年度 第1回広島県高校生競技会
(4月13日・広島広域)

広島県中学記録
斧澤 心彩(東広島TFC)
女子三段跳 11m24
細見 芽生(銀河学院高)
女子1500m 4分18秒57
第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
(7月29日・博多の森)
第7回広島経済大学記録会
(11月16日・広島経済大)

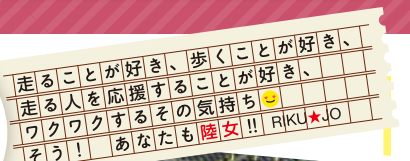
広島県小学生記録
小野 蒼太(FKC)
男子1000m 2分56秒70
第4回東部記録会(1月14日・竹ヶ端)
進藤 和奏(竹尋AC)
女子コンバインドB 2123点
第40回全国小学生陸上競技交流大会
(9月22日・国立)

広島県マスターズ記録
笹原 純平(マスターズ陸上広島)
M35 60m 7秒17
第43回中国マスターズ陸上競技選手権大会
(7月28日・岡山)
M35 200m 22秒64
2024年度呉市春季陸上競技記録会(5月3日・呉市)
大小田 靖男(マスターズ陸上広島)
M85 60m 10秒83
第36回岡山マスターズ陸上競技選手権大会
(5月19日・倉敷)
M85 三段跳 6m84
第42回広島マスターズ陸上競技選手権大会
(6月9日・びんご)
小松 弘明(マスターズ陸上広島)
M50 200m 24秒18
第2回北部陸上競技記録会(9月14日・みよし)
本多 逸雄(マスターズ陸上広島)
M70 200m 28秒10
2024年広島マスターズ陸上記録会(9月29日・庄原)
マスターズ陸上広島
磯村公三・堀岡茂・松浦辰行・本多逸雄
M70 4×100mR 59秒58
第42回広島マスターズ陸上競技選手権大会
(6月9日・びんご)
岩本 邦史(マスターズ陸上広島)
M85 200m 39秒87
第16回島根マスターズ陸上競技大会
(6月16日・益田)
M85 400m 1分38秒63
第36回岡山マスターズ陸上競技選手権大会
(5月19日・倉敷)
M85 800m 3分53秒6
第36回岡山マスターズ陸上競技選手権大会
(5月19日・倉敷)
M85 1500m 8分54秒77
第42回広島マスターズ陸上競技選手権大会
(6月9日・びんご)
M85 200mH 55秒10
第43回中国マスターズ陸上競技選手権大会
(7月28日・岡山)
西谷 吉弘(福山市陸上競技協会)
M60 400m 1分02秒01
2024年度第1回みよし長距離ﾅｲﾀｰ記録会
(7月20日・みよし)
M60 300mH 48秒25
第72回大阪マスターズ記録会(6月29日・長居)
木下 明彦(呉市陸上競技協会)
M50 3000m 9分34秒18
第19回ダイソーチャレンジin東広島長距離記録会
(10月13日・東広島)
伊藤 邦彦(マスターズ陸上広島)
M60 5000m 18分17秒83
第41回山口マスターズ陸上選手権
(6月1日・維新補助)
川本 正行(アジアクラブ)
M75 80mH 18秒72
2024年広島マスターズ陸上記録会(9月29日・庄原)
高木 靖幸(JFE西日本)
M40 5kmWロード 32分18秒
2024全日本マスターズ競歩(10月14日・岩手)
木村 英徳(マスターズ陸上広島)
M60 ハーフマラソン 1時間24分24秒
第32回高槻シティハーフマラソン2024
(1月21日・大阪)
妹尾 稔(マスターズ陸上広島)
M40 マラソン 2時間28分15分
第72回別府大分毎日マラソン大会(2月4日・大分)
丸田 忠衛(マスターズ陸上広島)
M90 立五段跳 3m50
2024年広島マスターズ陸上記録会(9月29日・庄原)
M90 ハンマー投 9m92
第42回広島マスターズ陸上競技選手権大会
(6月9日・びんご)
向井 富士男(マスターズ陸上広島)
M90 円盤投 13m30
2024年広島マスターズ陸上記録会(9月29日・庄原)
M90 やり投 14m52
第42回広島マスターズ陸上競技選手権大会
(6月9日・びんご)
松浦 加奈(広島市小学生体育連盟)
W30 60m 8秒64
第42回広島マスターズ陸上競技選手権大会
(6月9日・びんご)
勝村 三喜子(マスターズ陸上広島)
M80 60m 14秒17
2024年広島マスターズ陸上記録会(9月29日・庄原)
W80 100m 24秒20
2024年広島マスターズ陸上記録会(9月29日・庄原)
茗荷谷 ハヤ子(マスターズ陸上広島)
W90 60m 25秒50
第43回中国マスターズ陸上競技選手権大会
(7月28日・岡山)
W90 100m 44秒22
第43回中国マスターズ陸上競技選手権大会
(7月28日・岡山)
山田 志保(マスターズ陸上広島)
W45 3000m 12分13秒52
第36回岡山マスターズ陸上競技選手権大会
(5月19日・倉敷)
W50 3000m 12分29秒99
2024年広島マスターズ陸上記録会
(9月29日・庄原)
W45 5000m 21分13秒66
第42回広島マスターズ陸上競技選手権大会
(6月9日・びんご)
W45 10Kmロード 43分24秒
第38回サザン・セト大島ロードレース大会
(2月4日・山口)
田中 由美子(マスターズ陸上広島)
W55 3000m 12分23秒55
2024年広島マスターズ陸上記録会(9月29日・庄原)
河村 恵里(マスターズ陸上広島)
W40 ハーフマラソン 1時間40分30
第76回香川丸亀国際ハーフマラソン(2月4日・香川)
砂取 優奈(尾道市陸上競技協会)
W35 混成五種 2052点
中国マスターズ陸上混成(5種)競技選手権大会
(9月8日・倉敷)
W35 100mH 17秒37
中国マスターズ陸上混成(5種)競技選手権大会
(9月8日・倉敷)
W35 走幅跳 4m72
中国マスターズ陸上混成(5種)競技選手権大会
(9月8日・倉敷)
金川 和子(マスターズ陸上広島)
W80 砲丸投 6m91
第43回中国マスターズ陸上競技選手権大会
(7月28日・岡山)
明光 いづみ(TEAM BIG STONE)
W55 やり投 30m43
第42回広島マスターズ陸上競技選手権大会
(6月9日・びんご)

■特別賞
髙山 峻野(ゼンリン)
パリオリンピック出場(8月4日／6日・パリ)
男子110mH 13秒46(予選)
13秒45(敗者復活戦)
真野 友博(九電工)
パリオリンピック出場(8月4日／6日・パリ)
男子走高跳 2m20(予選)
福部 真子(日本建設工業)
第64回実業団・学生対抗陸上競技大会
(7月20日・平塚)
女子100mH 12秒69 日本新記録
パリオリンピック出場(8月7日／9日・パリ)
女子100mH 12秒85(予選)
12秒89(準決勝)

夢だと思った日本中学新記録!

福山市立神辺西中学校 三好美羽



私は土井杏南選手と1年前にお会いした時に「今を大切に楽しんで走ってね」と言葉をいただきました。その言葉を心の糧に、私は全力で陸上を楽しむ事にしました。

今年度は、グランプリレースや日本選手権にチャレンジしながら、自分の弱い所を少しずつ克服していきました。そして今年初めての広島県の中学の大会では、目標タイムを11秒7台にして当日を迎えてました。大会では、いつも凄く緊張してしまい、身体が上手く動かないのですが、不思議とリラックスして走れて、ゴールまで失速しませんでした。タイムを見てビックリ! 11.57まさか日本中学新記録が出るとは思っていなかったので、嬉しさのあまり跳びはねてしまいました。

でも、土井選手の時代よりもスパイクは進化しているし、日本中学記録を出された試合より私の方が追い風が強く、もし私があの時代にいたら同じタイムは出せなかったんじゃないかと思います。だから、これからも土井選手を目標にさせてもらいながら、全力で頑張っていきます。

また、周りで支えてくれる方々に感謝を忘れず精一杯、努力をしていきます。今後とも応援よろしくお願いします。

青少年の夢を応援します!

青少年健全育成協力企業

- 中国電力株式会社
- COCOKALAグループ T&TWAMサポート株式会社
- 株式会社エディオン
- 株式会社大創産業
- 株式会社ツルハグループ ドラッグ&ファーマシー西日本
- 広島駅弁当株式会社
- 広島菅公学生服株式会社
- 青山商事株式会社
- 株式会社中電工
- 株式会社合人社グループ
- 株式会社ひろぎんホールディングス
- 株式会社もみじ銀行
- 株式会社いとや
- 株式会社ウイズアート
- 株式会社体育社
- 株式会社ニシ・スポーツ
- 広島ガス株式会社
- 広島経済大学
- 有限会社大竹交通
- 有限会社道後山高原サービス
- 広島文化学園
- 株式会社安芸葬祭
- 株式会社ロジコムホールディングス
- 丸加ホールディングス株式会社
- ミズノ株式会社

令和6年12月21日 〒730-0011 広島市中区基町4番1号 (公財)広島県スポーツ協会内 Tel.082-223-3256 Fax.082-222-6991 E-mail:haaa@eos.ocn.ne.jp URL https://hiroshimatf.org
編集委員 藤原 文代・山田 貴子・奥村 恵美子・鈴木 晶雄・中本 隼介・木本 慎吾・山崎 亮平・中野 裕貴子・宮崎 博子・藤森 順子